

I 現状と課題

1 計画地及び周辺の概要

木津川運動公園は、京都府南部の山城地域、木津川右岸の丘陵地、城陽市の市街地外辺部に位置しています。

本公園及びその東側に広がる城陽市東部丘陵地は、昭和 35 年頃から山砂利採取が開始され、現在も採取が行なわれる一方で、（一財）城陽山砂利採取地整備公社が主体となり山砂利採取跡地の埋戻し事業が日々進められています。

城陽市東部丘陵地は、「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」（城陽市、平成 28 年 5 月）等に基づき、土地利用、緑の保全及びインフラ整備が順次進められる計画となっています。

最寄り駅は JR 奈良線長池駅であり、本公園南側区域までは徒歩で 10 分程度の場所にあります。

本公園周辺には、住宅地、運動公園、植物園、サンガタウン城陽、ゴルフ場などが所在しており、緑に囲まれた運動・レクリエーション機能が集まっています。



出典：木津川運動公園ホームページ
木津川運動公園南側区域



①府立山城総合運動公園	
所在	宇治市広野町
面積	94.9ha
施設	陸上競技場、体育館、プール、球技場、野球場、遊びの森、ふれあいの森 等
②城陽市総合運動公園	
所在	城陽市寺田奥山
面積	16ha
施設	体育館、野球場、多目的広場、テニスコート、バーベキュー、グランピング 等
③府立府民スポーツ広場	
所在	久世郡久御山町
面積	9.7ha
施設	グラウンド、自由広 場
④（公財）青少年野外活動総合センター	
所在	城陽市寺田南中芝
施設	フットサル場、プール、宿泊棟、バーベキュー、キャンプ場 等

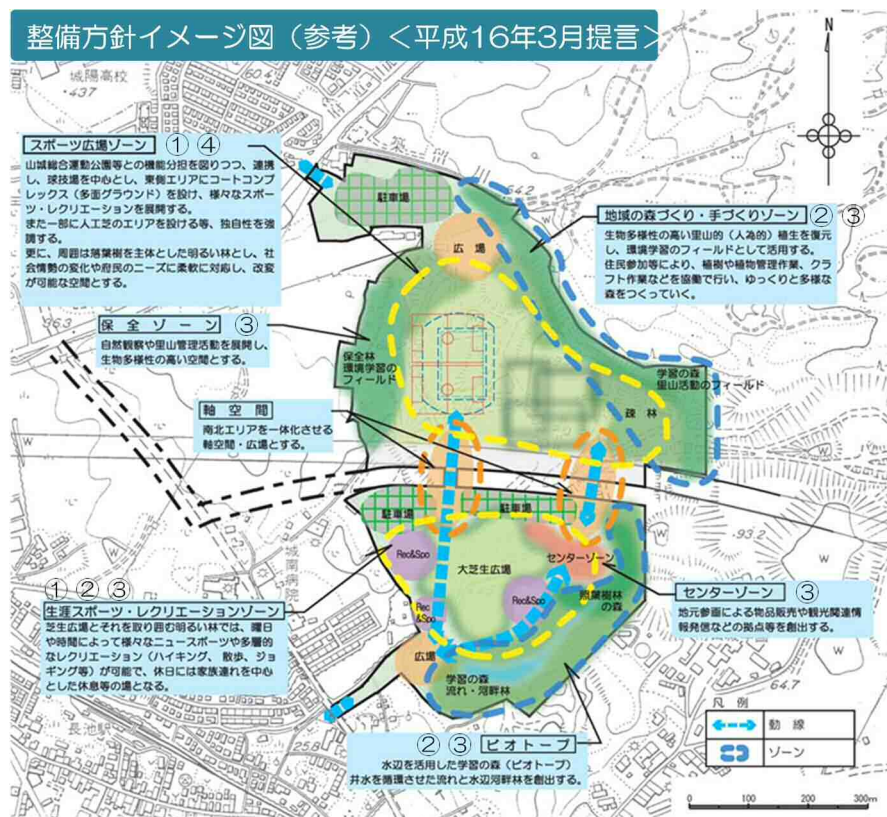
図 I-1 木津川運動公園の周辺状況

2 現在の基本計画

平成 16 年にスタジアムを中心とした計画から見直し、山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園を目指して府民参画による公園づくりを行うとともに、南側区域は大芝生広場、北側区域は大規模な芝生コートを中心に、生涯スポーツや多様なレクリエーションニーズに応え、地域の振興に寄与する公園としています。

また、広域的な防災機能を有する公園として供用中の南側区域は、「京都府地域防災計画」（京都府防災会議、令和元年 6 月）において防災活動拠点、「城陽市地域防災計画」（城陽市防災会議、令和元年 5 月）において広域避難場所及び災害時に被災者を支援するボランティアの活動拠点等として位置づけられています。

基本的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園 ● 計画から整備、管理運営まで府民参画により府民が育てる公園
空間利用の考え方	<ol style="list-style-type: none"> ① 子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽にスポーツを楽しめる公園 ② 多様なレクリエーションニーズに応え、交流の輪が広がる公園 ③ 多くの利用者で賑わい、地域の振興に寄与する魅力あふれる公園 ④ 安心・安全を確保する広域的な防災の機能を持つ公園



※①～④は「空間利用の考え方」

出典：「木津川右岸運動公園（仮称）整備計画策定に向けた提言」（木津川右岸運動公園（仮称）整備計画検討委員会、平成 16 年 3 月）

図 I-2 現計画の概要

3 周辺状況等の変化

平成 16 年 3 月の基本計画の見直し以降、新名神高速道路の建設凍結解除（平成 24 年 4 月）や城陽スマートインターチェンジ（仮称）の開設決定（平成 29 年 7 月）、国道 24 号城陽井手木津川バイパスの事業化（平成 31 年 4 月）、都市計画道路東部丘陵線の整備等、道路ネットワークの進展、アウトレットモールを始め城陽市東部丘陵地における商業・流通施設の立地といった新たな土地利用計画が具体化するなど、周辺環境が大きく変化しています。

また、京都府では、「お茶の京都」構想（平成 27 年 6 月）の策定や「京都府総合計画」（令和元年 10 月）の策定等、新しい取組みを進めているところです。

少子高齢化と本格的な人口減少、働き方改革、共生社会の実現、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の拡大など、都市課題も変化しています。また、国際連合において取組みが進められている令和 12（2030）年を目標とする SDGs（持続可能な開発目標）の達成についても、京都府の重要な目標としています。

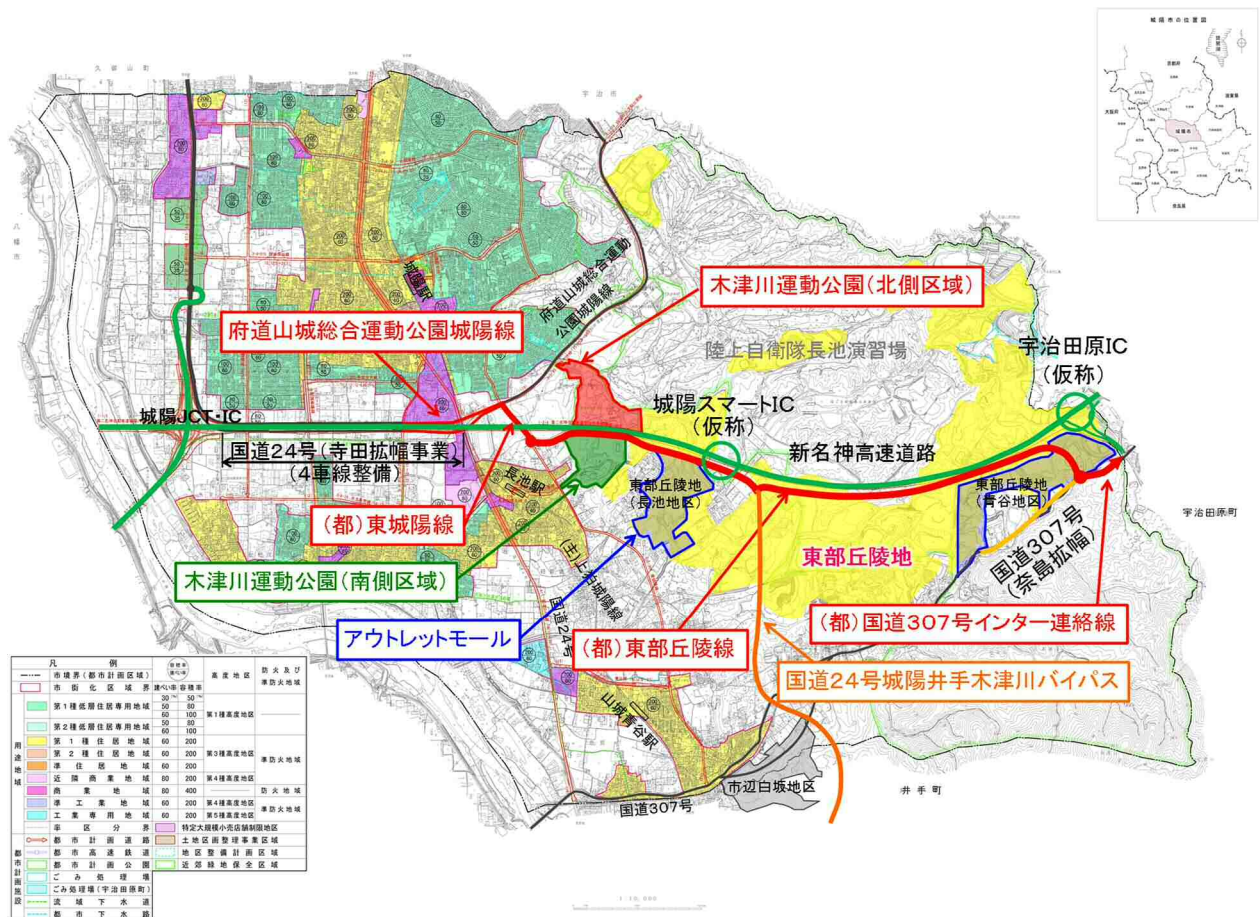


図 I-3 東部丘陵地整備関連開発動向